

多様化する医学部受験
医科大学附属高校という
新たな選択肢



早くから医師を目指している 医師の家庭なら検討したい 大学附属高校からの「推薦入学」

子どもを医学部に進学させたいと考えている医師家庭は多いと思います。しかし、日本を取り巻く経済状況の不安定さから安定性のある資格としての医師人気のかつてない高まりを受け、国公立・私立問わず、入学へのハードルは高まっています。そこで注目されるのが、医学部を持つ大学の附属高校からの内部進学という選択肢。親子で医師を目指す家庭にとって、進路選びの参考となる最新の医学部受験情報と医学部に内部進学できる大学附属高校について紹介します。

全医学部がボーダー偏差値60以上の難関

まず医学部入試の現状として、私立大医学部の志願者数ランキング(表1)を見てみましょう。6,649人と最も志願者数が多かった帝京大の募集定員は96人で、単純倍率は69倍にも上ります。次いで志願者数の多い金沢医大が60.2倍、独協医大が55.5倍と高倍率が続き、優秀な学生が集まる中での数値ということも踏まえると極めて狭き門であることが分かります。

2023年度入試における医学部に必要な学力をまとめたのが表2です。この表は、ボーダー偏差値と呼ばれる数値で、合格可能性が50%となる共通テストの得点率と前期個別試験の偏差値を表しています。国公立大医学部は、琉球大を除く医学部でボーダー得点率75%以上が基準となり、得点率80%以上の医学部が15校にも上ります。私立大医学部についてもすべての医学部でボーダー偏差値が60を超えています。

医学部以外の主な難関大学理系学部のボーダー偏差値は、東京大理科I類が67.5、京大工学部(物理工)が65.0、早稲田大創造理工学部が62.5、慶應義塾大理工が65.0。これら難関大と遜色ない難易度にまで上昇した私立医学部は、多くの受験生にとって“滑り止め”にできるレベルではなくなっている状況にあります。

医学部を持つ大学附属高校のメリット

医師家庭のように、早くから医師を目指すことが決まっているケースでは、難易度が高く競争の激しい医

学部受験以外の選択肢として、医学部のある私立大学の附属高校から内部進学できる内部推薦制度を利用するという道もあります。原則的に大学の附属高校は、大学に内部進学できる推薦制度が設けられています。医学部を目指す高校受験生にとっては、高校から大学卒業まで9年間の一貫教育を受けられる魅力もあります。

ここでは、医学部のある大学の附属高校におけるメリットを紹介します。最も大きいのは、入試自体の負担が一般受験と比較すると少なくてすむ点です。医学部の受験勉強は、高校受験に比べて膨大な時間と努力が必要です。大学入試で求められる試験教科数は高校入試よりも多いため、当然、試験範囲も広くなります。高校受験の競争相手は基本的に自分の居住地の近隣の受験生ですが、大学受験では全国の高校生に浪人生も加わるため、高倍率で激しい競争となります。

内部進学の場合、学科試験が免除される大学もあります。学科試験が課される場合でも、一般入試に比べて科目数が少なく問題が解きやすい傾向にあると言えます。こうした試験を行う理由としては、内部進学の入試の目的が大学の理念や教育方針に合った生徒を取ることにあるからです。多くの受験生の中で優秀をつけるための難しい問題が出題される一般入試に比べると、内部進学では入試のために費やす時間や労力は若干ではありますが軽いと言えるでしょう。

医学部への推薦入学の注意点

医学部の附属高校が持つメリットについて紹介しま

表1 志願者数ランキング

大学名	募集定員	志願者
帝京大	96人	6,649人
金沢医大(前期)	65人	3,914人
独協医大	62人	3,443人
国際福祉医療大	105人	3,009人
杏林大	100人	2,649人
埼玉医大(前期)	60人	2,544人
昭和大(1期)	82人	2,475人
東海大	60人	2,333人
東邦大	77人	2,304人
日本医大(前期)	88人	2,246人
岩手医大	78人	2,199人
自治医大	123人	2,179人
北里大	74人	2,178人
東京医大	79人	2,173人
福岡大	65人	2,135人
日本大(N方式第1期)	90人	2,054人
愛知医大	65人	2,040人
順天堂大(A方式)	64人	1,893人
聖マリアンナ医大(前期)	約70人	1,867人
東京慈恵医大	105人	1,860人

※医系専門予備校メディアカルラボ作成

表2 国公立大学一般選抜前期日程

共通テスト ボーダー得点率	河合塾 ボーダーライン偏差値(合格可能性50%)
91%	東京大(72.5)
86%	東京医科歯科大(70.0)、京大(72.5)
85%	千葉大(70.0)、横浜市立大(67.5)、大阪大(70.0)
82%	北海道大(65.0)、東北大(67.5)、筑波大(65.0)、名古屋大(65.0)、神戸大(67.5)、九州大(67.5)
81%	大阪公立大(65.0)、岡山大(67.5)
80%	広島大(65.0)
79%	名古屋市立大(65.0)、京都府立医科大(65.0)

※河合塾Kei-Net「入試難易度ランキング表(2022年11月現在)」より抜粋
※()内は、前期個別試験のボーダーライン偏差値 ※地域枠等を除く

表3 附属校からの医学部医学科内部進学者数(上位)

学校名(所在地)	男・女・共学	卒業生数	医学科進学者数
慶應義塾高等学校(神奈川)	男子	706	22
東邦大学付属東邦高等学校(千葉)	共学	293	19
川崎医科大学附属高等学校(岡山)	共学	17	15*
東海大学付属相模高等学校(神奈川)	共学	687	9
慶應義塾湘南藤沢高等部(神奈川)	共学	237	7
東海大学付属高輪台高等学校(東京)	共学	453	6
獨協高等学校(東京)	男子	190	6
慶應義塾志木高等学校(埼玉)	男子	243	5
慶應義塾女子高等学校(東京)	女子	199	5

※各校HPを基に編集部作成

*補習科からの進学者を含む実績値

したが、注意すべき点もあります。ここでは、注意するポイントを2つ紹介します。1つ目は、附属高校からの内部進学でも医学部は狭き門であるという点です。どの医学部でも附属高校から内部進学できる推薦枠の条件をクリアするためには、高校での優秀な成績が必要となります。

例えば、私立最難関の慶應義塾大の場合、医学部への内部進学枠は全生徒数の約3%となっており、10段階評価で評定平均8.5以上が基準とされています。学力レベルが高く医学部を志望する学生が多い中、体育や音楽などを含めた全科目の評定平均で高校入学時から上位3%以内というトップクラスの成績を目標にする必要があります。

2つ目は、系列の附属高校が多い大学の医学部ほど内部進学が厳しいことです。内部推薦の募集枠は、附属高校で合計20名というように定員が決められているケースがほとんどです。その場合、附属高校の数が多いほど成績上位者の競い合いが激しく、難易度が高くなります。近畿大や日本大、東海大など附属高校が多い大学は、医学部の内部推薦枠を勝ち取るために一般受験と同等レベルの学力が必要とされています。

全国唯一の医科大学附属高校は9割が内部進学

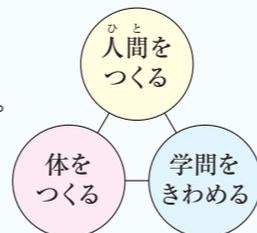
表3は、医学部を持つ大学附属高校の卒業生数と医学部医学科進学者数をまとめたものです。附属高校からの推薦入学でも一般の入学試験ほどではないにせよ、医学部への道が難関であることが分かります。しかし、在校生の約9割が医学部へ内部進学できる高校があります。3位にランキングされている川崎医科大学附属高等学校です。2022年度の卒業生は最終的に17人中、15人が内部推薦で医学部医学科に進学。この高い内部進学率は、川崎医科大学附属高等学校が全国唯一の医科大学附属高校であるということによるものです。

川崎医科大学附属高校に入学するには、学力とともに、良医になりたいという高い志が求められます。そして、入学者全員が医師を目指すため、少数精鋭の全寮制を導入しており、医学部進学を想定したきめ細やかな指導を受けることができ、医師に必要な学力を身に付けることができます。早くから医師を目指すことが決まっている医師家庭にとっては、受験を検討する価値のある附属高校と言えるでしょう。



高校から歩み始める『良医』への道

知性と人間性を磨き、『良医』と呼ばれる医師の基礎を育む。
それが私たち川崎医科大学附属高等学校の使命です。



難化が続く医学部受験において、選択肢として考えたのが、全国唯一の医科大学附属高校である川崎医科大学附属高等学校だ。推薦制度で毎年9割近くが同医科大学へ進学するという同校の竹田義宣校長に話を聞いた。

— 学校の特長を教えてください。

最大の特長は、全国唯一の医科大学附属高校として1970年の川崎医科大学開学と同時に開校した点にあります。創設者である川崎祐宣先生の『良医』になるための人間教育を行う場として、大学と同時に附属高校を作らなければならない」という熱い思いを実現したのです。以来、「ひとをつくる 体をつくる 学問をきわめる」を建学の理念に掲げ、良医を育てる教育を実践しています。

— 教育において他校と違う点を教えてください。

川崎医科大学、川崎医科大学附属病院、川崎医科大学総合医療センターなど「川崎学園医学教育ネットワーク」のサポートを全面的に受けることができます。本物に触れる体験学習ができる点において、日本一の環境であると自負しております。恵まれた環境に加え、学力を伸ばすためのきめ細やかな指導、人間性を育む寮生活などの特長があります。卒業生の90.2%が川崎医科大学へ、他の医学部に進学した生徒を含めると94.2%が医学部に進学しています。



竹田義宣校長

本校ならではのプログラムとしては、川崎医科大学との連携による全員参加の体験型授業「ドクターロード」があります。「医師へのインタビュー」では、生徒一人対医師一人という形で附属病院の医師に協力をいただいています。令和4年度は28人の医師に協力いただきました。これはグループに複数の大学病院を持つ本校でしかできない体験でしょう。「なぜ医師になるのか」「どんな医師になりたいのか」を深く考える機会になると考えています。

3年間の寮生活が良医の資質を育む

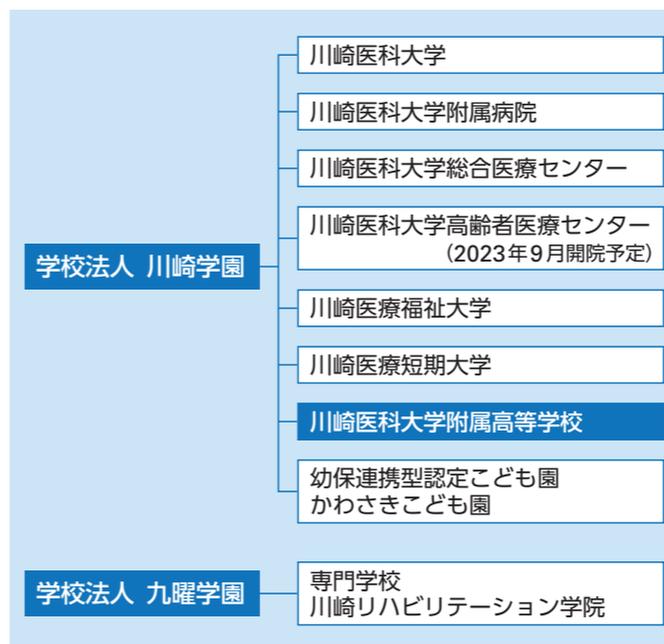
— 全寮制のメリットはどこにあると考えていますか。

寮生活を通じ、協調性や自立心、コミュニケーション能力など医師に求められる人間性を育むことができます。中学校を卒業したばかりの生徒は不安を抱いて入学してきます。そうした不安を舎監や寮職員が生活面でサポートし、同じ目標を持つ仲間たちと切磋琢磨しながら3年間を過ごします。卒業生へ寮生活のイメージをきくと、「親離れ」「親への感謝」「自立」「規則正しい生活習慣」「仲間」「先輩」「助け合い」といったキーワードが出てきます。この3年間を全うしたことが、良医になる資質を備えている証明のようなものだと感じています。

— 保護者と学校の関わりについて教えてください。

保護者は全国に居住していますが、直接学校と寮においていただくことを大切にしています。保護者懇談会は年2回、学校では担任と主に学業について面談し、寮では舎監と生活面の懇談をしてもらいます。体育祭や文化発表会などの行事にもできるだけ保護者に

医師への夢を強力にサポートする川崎学園ネットワーク



来ていただきたいと考えています。さらにオンラインを活用して3学期に3回目の懇談会も開催するようになりました。また、コロナ禍で中止が続いていますが、かつては全学年の保護者と全教職員との懇親会を開催していました。大きな特長は、医科大学の先生が参加することです。保護者は医学部との連続性を感じることができますし、大学の先生と話をする良い機会にもなります。この懇親会は是非復活させたいです。

— 推薦入学について教えてください。
医科大学の募集要項に「学校推薦型選抜（附属高等学校）【専願】」の定員が明記され、約30人という枠が確保されています。また、現役生だけでなく一浪生までは「補習科生」になれば、次の年も推薦枠でチャレンジできます。

全国で唯一の医科大学附属高校

全国で唯一の医科大学附属高校という特長を生かし、本校では高等学校の3年間だけでなく、医科大学の6年間をも含めた「9年一貫教育」を実践しています。本校での3年間は『良医』という目標を意識した教育を展開します。医科大学での授業をはじめ、医学に対する基礎を固める充実した3年間を過ごすことで、その先の6年間の学びをより深く実りの多いものとしします。

開校以来の川崎医科大学への進学率



過去3年間(2020~2022年度)の川崎医科大学入試の倍率

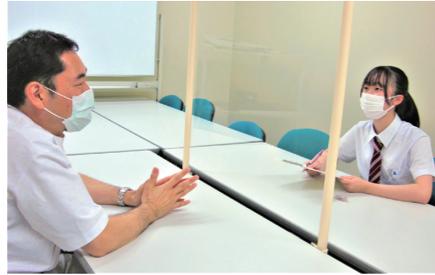


— 受験生・保護者にメッセージをお願いします。

本校は、医科大学に必要な基礎学力をしっかり身につけること、その上で医学に関連した本物の経験を深めることを大切にしています。全国から集まる仲間と3年間を過ごし、生涯の友を作ることできます。良医を目指す全国の方々をお待ちしております。



写真：川崎医科大学(左)、川崎医科大学附属病院(右)



医師へのインタビュー

「良医」を目指す体験型授業 “ドクターロード”

医師は知識や技術だけでなく、その人格をも厳しく問われる職業です。本校では多彩な体験型の学びを取り入れた教育プログラムを実践。医学に関するさまざまな体験を通して、生徒一人ひとりの内面を磨き、『良医』となるための自覚を育みます。

Doctor Roadの主なプログラム

1・2年次に実施している総合的な探究の時間が「Doctor Road (ドクターロード)」です。川崎医科大学や附属病院などで、医学に関する、横断的・総合的な学習を行うことを通して、「良医」を目指すためによりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成します。

現代医学教育博物館研修	現代医学教育博物館は、豊富な実物標本で現代医学の全般が学べる施設。1年次の1学期に施設で研修し、医学の歩みを学びます。
医師へのインタビュー	1年次に生徒自らが診療科を選択し、質問事項を考えて、川崎医科大学附属病院・総合医療センターの医師に1対1でのインタビューを行います。
メディカルスクール・アワー	1・2年次に川崎医科大学の教員による高校生向けにアレンジした専門的で高度な授業を受けます。
旭川荘研修	社会福祉法人旭川荘は障がい者・高齢者のための関連施設。1・2年次に施設での実地体験を行い、医療福祉の現状を学びます。
テーマスタディ	2年次に3～4人のチームに分かれて、研究テーマを決め、調査や実験・観察を行い、発表します。医科大学の先生が審査員となり表彰します。
医科大学体験実習	2年次に2～3人のチームに分かれて、川崎医科大学の基礎・応用医学の研究室で解剖学や生理学などの体験実習を行い、実習レポートを作成します。
附属病院見学	2年次に川崎医科大学附属病院のMRI等の医療機器や高度救命救急センター及び医療環境を見学します。
卒業生講話会	医師として活躍している卒業生の本音の講演を聴きます。

『数・英・理』を重視した独自の教育プログラム

医科大学の進学を視野に入れた、本校独自の教育プログラムを構築。将来、医学を学ぶために重要な基礎となる数学・英語・理科に重点を置き、徹底指導していきます。数学は問題演習による応用力、英語は「読む・書く・聞く・話す」の総合的能力、理科は物理・化学・生物の3科目すべての学力の育成を行います。プログラムは川崎医科大学との連携で実施するもので、川崎医科大学附属高等学校ならではのノウハウが凝縮されています。



テーマスタディ



医科大学体験実習



附属病院見学

少人数制を導入、生徒一人ひとりに目が行き届く環境

少人数制

生徒一人ひとりの学習を着実に伸ばすために、少人数制を導入しています。生徒一人ひとりの習熟度を確かめながら、必要に応じて放課後や土日の補習、個別指導などきめ細やかな指導を行います。

繰り返し学習の徹底で、着実に学力を伸ばす

本校のカリキュラムは、授業時間の多くを入試科目に充てています。特に医学を学ぶ上で重要な理数系科目は時間数を充実。継続的に繰り返し学ぶことで基礎力から応用力まで着実に身につけることができます。令和4年度からは医科大学でも使用可能なタブレット端末を一人一台ずつ導入し、授業などで活用しています。

授業時間外でも教員が個別に対応

本校には授業時間外でも勉強や進学について、いつでも教員に質問・相談できる環境があります。職員室の前にはホワイトボード、個別の学習スペースがあり、教員がその場ですぐに質問に答えたり、勉強を教えたりすることができます。



生物実験



個別指導などで自学自習をサポート



学習室で同級生や先輩たちと一緒に学習

教員からのメッセージ



学習の継続から理解が生まれる。問題の全体像を見渡す目を持つ

球技などの部活動で繰り返し練習していると、知らぬ間に上達するように、数学も勉強を続けていると突然分かるようになることがあります。日々の訓練が土台となり、成果が表れるのです。問題の解法は一つだけではありません。数式を解くことだけに集中するのではなく、問題の全体像を見渡すことができるよう指導します。 数学 山本 雅弘先生

意見を文章で伝えることが大切。辞書を引く習慣が学習を高める

作品の主題を自分の日常の人間関係に結び付けて考え、そこに自分の意見を持ち、文章で他者に伝えることが大切です。チーム学習でクラスメイトと意見を交換し、話し合います。他者の意見を参考にして考えを深めることが必要。辞書を引いて言葉を学ぶ習慣が語彙力や表現力の向上につながります。 国語 石賀 朋美先生





男子寮



女子寮

仲間と過ごす全寮制の3年間で 自立心と協調性が育まれ、一人 ひとりが大きく成長

本校は全寮制。寮は学校敷地内にあり男子寮と女子寮に分かれ、完全個室でプライバシーが守られています。全体集会ができるラウンジや共同キッチンなどを完備しています。校舎棟へは専用通路でつながっており、セキュリティも万全です。寮生同士がコミュニケーションをとるスペースとしてフロアごとに談話室があり、それぞれが自主性、協調性をしっかり育める環境を整えています。3年間で仲間とともに過ごす中で、生徒一人ひとりが自分と向き合い、仲間同士で励まし合いながら、「医師になる」という同じ目標に向かって前進していきます。



女子寮/玄関
舎監・寮職員がともに生活しながら生徒を見守り、支えています

共用施設

セキュリティシステムを完備し、 勉強に集中できる、快適で安全な環境

本校は寮と校舎棟が同じ敷地内にあり、便利で快適な環境のもと、規則正しい生活を送ることで勉強に集中することができます。寮では、舎監・寮職員が生活を見守り、生徒たちの毎日をきめ細やかにサポート。施設設備もカードキーなど万全のセキュリティシステムを完備し、安全を確保しています。



セキュリティドア
オートロック式で不審者の侵入を阻止。いつ誰が通ったか記録が残ります



男子寮/個室
十分な広さを持つ個室は、集中して勉強できる快適な空間です

食堂や売店を完備 学校生活を楽しく、便利にサポート

本校のサービス棟には食堂や売店(高島屋)を完備。友達とおしゃべりをしながらランチタイムを過ごしたり、毎日の生活で必要なものを購入したりすることができます。学校生活が快適で楽しく、便利に過ごせるようにサポートしています。



寮の食事
食事は栄養士と調理師が管理し、生徒たちの健康をしっかりサポートしています



売店
サービス棟にある高島屋の売店。文房具や軽食などを販売しています

部活動や学校行事などすべての 経験が将来の糧に

全人教育の一環として、本校では生徒全員の運動部参加を義務付けています。スポーツを通じて身体を鍛え、人間性を養うことは高校生にとっても、将来医師として活躍するためにも重要です。また、学校行事など仲間と共有する時間は、高校生活の大切な思い出となり、将来の大きな糧となるはずです。



広報誌「いくさか」、「学年通信」

ホームページ、広報誌「いくさか」、「学年通信」で情報を発信

生徒たちの学びの様子、学校行事などのスクールライフをホームページ「附属高校の今」等や広報誌「いくさか」、「学年通信」を作成し、保護者に送付しています。また、年3回実施する保護者懇談会で成績状況や指導方針を保護者へ伝えています。

健康な身体づくりと人間性を育成 運動部へは全員が参加

スポーツを通じての健康な身体づくりと豊かな人間性の育成を目指し、全員が運動部に所属しています。現在、テニス部、サッカー部、陸上部、バスケットボール部、剣道部、バドミントン部、バレーボール部の7つの部があり、授業後に活動を行っています。



部活動
運動部には生徒全員の参加を義務づけ。健康な身体と人間性を育みます

平日のタイムスケジュール

7:00 起床	7:15 課題配布・自習	8:00 点呼・登校・朝食	8:35 シフトホームルーム	8:40 午前授業	12:30 昼食・休憩	13:20 午後授業	16:10 部活動	17:30 夕食・入浴	19:05 学習準備	19:15 夜間学習	22:30 就寝準備等	23:00 点呼・消灯
------------	-----------------	------------------	-------------------	--------------	----------------	---------------	--------------	----------------	---------------	---------------	----------------	----------------

登校
「おはよう」の元気な挨拶から1日がスタート。寮を出る時は、自分のネームプレートを裏返します。これが「外出中」のサイン。

昼食
昼休みは、友達とおしゃべりしながら楽しくランチ。メニューは日替わりでバリエーションも豊富。「おいしい」と評判の学食です。

入浴
寮に戻ってゆっくり入浴。昼間の疲れを癒して気分をリフレッシュ。夜間学習に備えます。

授業
みんな真剣なまなざしで授業に集中。少数数から丁寧に教えてもらえるし、分からないところはすぐに質問できます。

部活動
生徒全員が運動部に参加。好きなスポーツに熱中できること、仲間同士で触れ合えるのが大きな楽しみです。

自学
寮の「点呼・就寝」は23時。この時間を過ぎても勉強に取り組む生徒もいます。「自学」の習慣が身につくのも本校の特長。

「医師になる」志を持った友と切磋琢磨した3年間

私が附属高校を選んだ理由は2つあります。1つは全国唯一の医科大学附属高校だからです。幼少期から両親が医師として患者さんと丁寧に向き合う姿を見て、いつか自分も両親を超える医師になりたい、沢山の人の命を助けたいと思うようになりました。附属高校では全員が「医師になる」という大きな志を持ち、切磋琢磨しながら勉学に励む環境が整っていると考えました。

2つ目は全寮制です。ハリポッターの映画に出てくる寮で友と一緒に生活することに憧れを持っており、寮生活は魅力的でした。今でも困った時は、附属の友達に相談することが多く、一生の友達を作ることができたと思います。

勉強面では、少人数制のためきめ細やかな授業が行われ、理解度が高まり

ます。生徒数に比べ先生が多く、休み時間や放課後に自分が理解できるまで丁寧に教えてもらえます。そして最大の魅力は夜間学習です。平日夜間に同級生や先輩たちと同じ場所で勉強する一斉学習の時間があり、1日の授業で分からなかったところを監督の先生や外部の夜間講師の先生に質問できます。勉強の習慣はあまりありませんでしたが、少しずつ自分のペースで自学自習の習慣が身につけていきました。

私が川崎医科大学に進学して最も有利だと感じたのは、物理・化学・生物を習っていたことです。普通、理科の履修は2科目ですが、附属高校では3科目です。そのため医科大学で苦勞することがあまりなく、高校で基礎を固めていたことからスムーズに大学の内容が理解できました。

また附属高校出身者はコミュニケー

ション能力が高く、人前で話すことが得意な人が多いことも大きな特長です。先生方との距離が近い分、大人との接し方が身につく、寮生活において友達や先輩、後輩と話す機会が多くなるため医師に必須であるコミュニケーション能力が高まったのだと思います。授業でも発表をする機会が多く、3年間で徐々に慣れていきました。これらの能力は医科大学入学後にグループ発表や個人でテーマを決める発表でも役に立ち、附属高校出身者は躊躇することなくこなすことができている。



渡邊 悠さん
(2021年3月卒)

卒業生が語る「私の川崎医科大学附属高等学校」

附属生というだけでファミリーのようになれる学校

私がこの学校を知ったのは、姉が卒業生だったからです。しかし、入学は自分で決めました。全国唯一の医科大学附属高校であり、医師になる1番の近道と考えたからです。15歳で親元を離れるのは不安でした。でも入学してみると、不安があったことなんて忘れるくらい楽しい日々を過ごしました。大きかったのは、友人の存在です。寮生活では毎日友人と顔を合わせ、不安があれば相談できるので、強い信頼関係を築くことができます。寮は一人部屋なので自分の時間も確保できます。休日にはみんなで遊びに行ったり、一緒にテレビを見たり、楽しい思い出ばかりです。

勉強面では、毎朝課題に取り組みます。復習中心で少ない分量ですが、朝の勉強を習慣化できました。夜の学習時間には、グループ学習のスペースで

友人に質問したり、授業で聞き逃したところを互いに確認できたりもしました。

附属高校は少人数制なので、先生方との距離が近く、一人ひとりのことをよく考えてくれていることが身に染みて分かります。質問はとことん教えてもらうことができますし、受験前は相談事もしました。新型コロナウイルス感染症の流行前は定期的に、学年混合の班で先生方を交えて食事するイベントが行われるなど学年をまたいだ交流も盛んです。

附属高校が他の学校と違う1番のポイントは、医科大学附属高校ということです。医学・医療と関わる機会が多く、医師の講義を聴く「メディカルスクール・アワー」や「医科大学体験実習」「医師へのインタビュー」などが経験できるのは魅力です。高校生時点

で、医師になる心構えとイメージが湧きます。

附属高校ではとても良い高校生活を過ごすことができました。正直、地元の友達のSNSなどを見て、羨ましく感じることもありましたが、しかし、自然に囲まれた環境で他校では経験できないような高校生活を送り、楽しい思い出がたくさんできました。同級生もここ生坂で高校生活を送ってよかったと口を揃えます。一生涯の友人もできますし、附属生というだけでファミリーのような存在になることができるとても素敵な学校です。



大戸 佑真さん
(2021年3月卒)

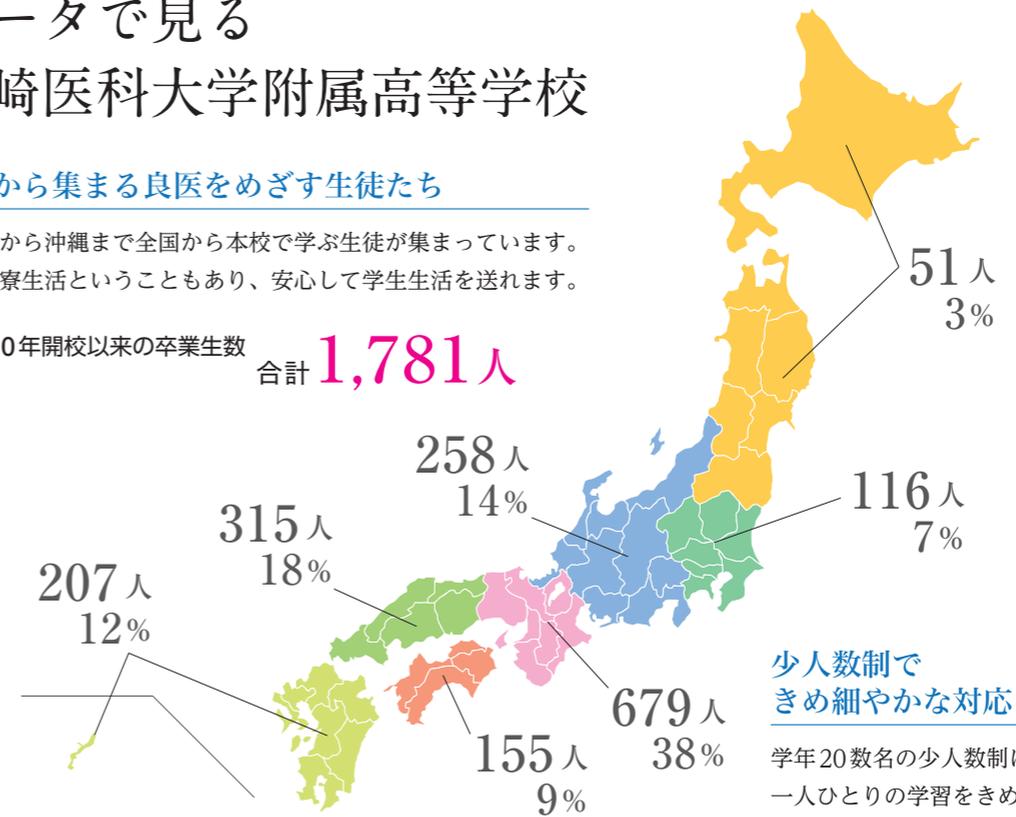
データで見る 川崎医科大学附属高等学校

全国から集まる良医をめざす生徒たち

北海道から沖縄まで全国から本校で学ぶ生徒が集まっています。全員が寮生活ということもあり、安心して学生生活を送れます。

1970年開校以来の卒業生数

合計 **1,781人**



少人数制で きめ細やかな対応

学年20数名の少人数制により、一人ひとりの学習をきめ細かくサポートできます。

在校生生徒数 (2022年5月1日現在)

	男	女	合計
1年	14人	15人	29人
2年	14人	14人	28人
3年	16人	9人	25人

川崎医科大学附属高等学校の施設

本校キャンパスは市街地から少し離れた豊かな自然の中にあり、静かな環境で勉強に集中することができます。また主要な施設は通路でつながっており、移動のたびに外に出ることはなく、安心安全な学校生活を送ることができます。

- 校舎棟
- サービス棟
- グラウンド
- 体育施設
- 男子寮
- 女子寮



校舎棟マルチメディア教室



体育館

川崎医科大学の入試データ (2022年度一般選抜)

	計	男	女
志願者数	1351人	889人	462人
受験者数	1296人	852人	444人
一次合格者数	368人	242人	126人
入学者数	68人	42人	26人
倍率	19.87倍	21.67倍	17.77倍

川崎医科大学の国家試験合格状況

		受験者数	合格者	合格率
2021年 (第116回)	新卒	100人	94人	94.0%
	既卒	17人	12人	70.6%
	総数	117人	106人	90.6%

Q&A

Q1 入試にはどんな種類がありますか？

専願入試（定員20名）と一般入試（定員15名）の2種類があります。専願入試が先に行われ、専願入試受験者も再度、一般入試に出願することができます。

Q2 寮生活について教えてください。

本校は入学者全員が入寮し、生活全般を通じて3年間を共に過ごします。寮は学校敷地内にあり、男女別棟で完全個室。ラウンジや共同キッチンなどを完備しています。校舎棟へは通路でつながっており、セキュリティも万全です。寮では舎監・寮職員が、一人ひとりを温かく見守り、支えていきます。

Q3 勉強についてのサポート体制を教えてください。

本校の授業は、医学部進学を見据えた学習計画書を全科目で作成。少人数制できめ細かな授業を計画的に実施し、生徒は基礎力から高度な応用力まで着実に学んでいきます。とくに英語・数学・理科は時間数を充実させており、放課後には全員参加の補習も実施。また授業時間外でも勉強や進学について、いつでも教員に相談できる環境を整えています。

Q4 部活動について教えてください。

スポーツを通じての健康な身体づくりと豊かな人間性の育成を目指し、生徒全員が運動部に所属。テニス部、サッカー部、陸上部、バスケットボール部、剣道部、バトミントン部、バレーボール部の7つの部があり、授業後に活動しています。

川崎医科大学附属高等学校説明会等のご案内

公式サイト（下記URL参照）よりお申込みいただけます。

また、右記の二次元バーコードからもお申込みいただけます。



学校説明会 東京会場	令和5年5月14日(日)	①10:00~12:00 ②14:00~16:00	東京コンファレンスセンター・品川
学校説明会 福岡会場	令和5年5月14日(日)	14:00~16:00	TKPガーデンシティ 博多新幹線口
学校説明会 名古屋会場	令和5年5月21日(日)	14:00~16:00	TKPガーデンシティ PREMIUM名古屋新幹線口
学校説明会 大阪会場	令和5年5月21日(日)	14:00~16:00	新大阪丸ビル別館
第1回オープンスクール	令和5年7月23日(日)	10:00~12:30	川崎医科大学附属高等学校
第2回オープンスクール	令和5年8月20日(日)	10:00~12:30	川崎医科大学附属高等学校
第3回オープンスクール	令和5年10月29日(日)	10:00~13:00	川崎医科大学附属高等学校
学校見学会(11月)	令和5年11月25日(土)	10:30~12:30	川崎医科大学附属高等学校
学校見学会(12月)	令和5年12月22日(金)	10:30~12:30	川崎医科大学附属高等学校

※今後、日程が変更する可能性があります。最新情報は本校Webサイトからご確認ください。

「親子で医師の道へ
ファミリートーク」
は公式サイトでご覧いただけます。



川崎医科大学附属高等学校

〒710-0002 岡山県倉敷市生坂 1661
TEL.086-462-3666 FAX.086-462-7444
E-mail highsc@med.kawasaki-m.ac.jp
<https://s.kawasaki-m.ac.jp>